



NO.32 27.12.15(Mon)

志都呂幼稚園では、朝の自由遊びも含めて、日々異年齢交流を行っています。年上の子が年下の子を慈しむ、年下の子は年上のお兄さん、お姉さんを敬う。

例えばアスレチックなどの難易度の高い遊具に挑戦して止まってしまっているもも組さんに、「手、持ちなよ(手に掴まって、持ち上げてあげるよ)」と、自然に手を差し伸べてくれたり、もも組さんが泣いていると、ひざまずいて視線を合わせ「どうしたの?」と教室まで連れて行ってくれたり。園では、ほっこりする場面満載なんですよ。

 ある日も、もも組さんがアスレチックで一番上の頂上まで行けたはいいけど、足がすくんでしまい動けずにいると、さくら組のお姉さん2人が「一緒に滑る?」と声を掛けてくれていて…。

 またある日の放課後、バスコースごとに遊んで帰る支度をしている時、靴がなかなか履けずにいたもも組さんに、手助けしつつ履かせてあげ、更に履けるまで見守り待っていてくれる姿も。

 もも組さんがバスの中で寂しくて泣けてしまっていると、ヘルメットの上から「よしよし」してくれていた。

そんな極上の純真な優しさを発揮してくれる年上の子達とて、年少の頃は、園生活にすらなかなか慣れず誰よりも泣いていた子もいました。

(その子も)周りのお姉さんお兄さんにたくさんたくさん声を掛けてもらって、たくさんたくさん温かさをもたらしてきたんですね。

だからこそ、今度は自分が他者に自然にその温かさを分けてあげられるんですね。そんな思いやりが脈々と受け継がれ連鎖していく光景が温かくて、ほっこりしていて、そしてその思いやりこそが、これからの社会を生きていく過程において必要な力、社会力やコミュニケーション力に直結していくと思います。

何気ない日常に溢れるそんな場面、是非皆様にもお裾分けしたく、園長だよりに掲載させて頂きました。

志都呂幼稚園の子ども達、優しいんです!!!

